

気をつけましょう

和牛

雄子牛は哺乳中に去勢を

最近、肥育の大半は去勢牛の若令肥育で、子牛のセリ市でも雌より雄または去勢の方が高く、特に去勢は有利ですから、哺乳中にぜひ去勢しておきましょう。去勢するには生後2—3ヵ月の間がよく、この間だとあまり子牛の発育に影響しません。しかし、発育の良くないもの、体の巾や深みのない栄養の悪いものは去勢しないように。

また、急な牧野に親子で放牧する場合は去勢してはいけません。

放牧を巧くするよう準備を

牧野のある所は放牧をうまく利用する事が経営を有利にします。放牧する前には自分の牛に焼印を押し、削蹄して肢勢が崩れないようにすると共に、山こけ等を防ぎましょう。

放牧前には青草にならしておかないと草を十分喰い込まず、故障も起き易い。放牧には頬綱は必ずはずし、鼻環の大きいのもよくありません。

放牧場は少なくとも2～3牧区に区轄して、輪換放牧できるようにすることが一番大切です。

鶏

鶏卵の商品価値を高めよう

養鶏経営の目的は、最終的には鶏卵、鶏肉等を良い値で販売して養鶏収益をあげることにあり、それには鶏卵が生鮮食品である以上、野菜や果物、魚類等と同様に、やはり新鮮で品質のよい、商品価値の高い鶏卵でなくてはならない。そこで品質規格の高度化が要求されてきます。

◎選卵をして大、中、小卵の区分をして玉の斉一性を高めよう。

◎卵殻については、薄殻、粗剛、汚卵、破卵、ヒビ卵、卵形不整等の不良卵の混入なきよう注意しよう。

◎出荷日数の間隔を短くして鮮度の高い卵を出荷しよう。特に夏期は腐敗卵に注意しよう。

◎卵の箱の古いものは破卵等の事故の原因となるのみでなく、伝染病の媒介となるので新箱を使うように努めよう。

◎重量、個数、玉の区分、正味卵量、荷造年月日、責任者名等の保証標識は厳重に銘記しよう。

◎卵の詰め方は鮮度に影響するので鋭端（先の細い方）を必ず下にしていねいに詰めましょう。